

---

# 機械計画

莓風味作家

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

機械計画

### 【Nコード】

N3432I

### 【作者名】

莓風味作家

### 【あらすじ】

異能を持った姉妹、アイリスとエリカ。二人は、不幸にも残酷な計画の『材料』として捕まってしまう。

アイリスは異能を使ってエリカを裏切り、脱出した。

材料にされ、悪魔の計画に使われたエリカは記憶を失いアイリスを憎む。

最愛の妹を裏切って逃げたアイリスは自責の念に苦しみながら旅をした。

計画に引き裂かれた姉と妹の冒険、そしてその結末を、知りたくは

無いだろうか。

## プロローグ

（プロローグ）

「リンダが、その村の・・・？」 「ええ。」 「あの　　。それは、良い考えだ。」

「それでは。この計画は　　を使おう。一人二人・・・そうだな、若い娘なら警戒もされないか。・・・計画開始。」

—————

神から授かった、偉大なる力。そんな能力者の村がある。彼らの殆どは不老不死、と言われる程に強いからだと一つの力を持って生まれた

はるか昔に、彼らは神の僕として造られ、神は奴隷のように彼らを飼い、そして証に刻印を押す。縛りの鎖と服従の血を表すその刻印は、　　力あるもの　　の証でもあった。

やがて、時が流れ開放された彼らは力と存在を隠すように森の中でひっそりと暮らし、協力し合い、唄が流れて笑顔が溢れる幸せな村を作った。何年も前、一人少女がいなくなったこと以外は事件も無く、なにひとつ不幸が無いような。

「お姉ちゃん！早く、早く。綺麗だよ！！」

「まっ・・・て、待ってよ、エリカー！」 遠くで響いたのは、村の長の娘、アイリスとエリカの声。

姉のアイリスは「奪う」という稀で危険な力を持って生まれ、その代償のようにエリカは殆ど能力を持っていない。・・・いや、違う。刻印はあるが、誰も、両親さえもその能力を知ることにはなかった。

アイリスはその力を使うことを硬く禁じられ、そして其れを守った。  
二人とも可愛らしくて、村のみんなに。好かれていた。

そんなとき。遠い地で行われた一つの計画を、彼らは知る由も無い。

## 第一話・鎖・

「エリカ、は、早いですよっ!」

「お姉ちゃんが遅いんだよー!」きゃっきゃと高い声を上げるエリカは、今年で九つ。そして、息を切らしているアイリスは十四。

美しく長い黒髪のアイリスは、右目に眼帯をしている以外は整って美人と言っしかないような顔立ちで、肢体は細い。少し病気がちで体が弱く、気も大人しい。・・だが、アイリスには青い左目と同じようには、右目が無かった。本当に、欠けているのだ。生まれつきに。その目蓋は開いてもそこには眼球が無い。

金髪を短く切ったエリカはいかにも子供らしく、可愛らしい。金色の眼はきらきらと輝いて、しつかりと筋肉の付いた体つきから、外で跳ね回る様子が伝わってくる。

ぱっとみた容姿は似てないけれど、やっぱり面影は同じだ。二人とも、村のみんなに好かれ、優しかった。

「お姉ちゃん。ほら!こっちこっち。」

アイリスの手を引いて、エリカが連れて行ったのは美しい百合と鈴蘭が咲く場所。アイリスは、花が大好きなのだ。

「わあ・・。綺麗!エリカ、有難う。」

「お姉ちゃん。これから、大人になっても、ずーっとエリカと一緒にいてね!」あらかじめ摘んでおいたのか、ほんの少ししおれかけた百合をアイリスに手渡し、エリカはにこっと笑った。

—————

「こんにちは。」

「あ、こんに・・・っきゃあああっ!」

村の入り口で、悲鳴が上がる。マントを羽織った男が、若い女の子の喉元に鋭いナイフを突き立てている。あとほんの少しでも力が入

ればそのまま喉を切り裂いてしまいそうだ。

「おい。ここの長はどこだ？案内しろ。」

冷たく響く声と鋭いナイフに怯えきった少女は、素直にその村の長、アイリスとエリカの両親の元へと案内した。

「・・・？」一瞬、アイリスの眼が止まる。どうしたの、とエリカが聞いた。

「なにか・・・聞こえる・・・？」不思議そうに呟くアイリスだが、エリカは「全然聞こえないよ？」と答えた。

『ザッツ！ザー・・・。娘を・・・出す・・・から、ザー、村は助けてくれ！アイリスと』

『アイリスとエリカを連れて行って良い！だから、村には手を出すな！』酷くノイズのかかった音が、アイリスの耳に入る。徐々に鮮明になっていったその音は、確かに。父の、声だった。瞬間、アイリスの血の気が引く。逃げなくては、と全身が叫んでいた。

「っ！エリカ！！」

「おじよーさま。見つけえ・・・」叫んだのもつかの間、頭の上から声が降る。アイリスもエリカも、頭上を見上げて其処にいたのはあやしく笑う女。

ひゅん！耳元で空を切る音がしたかと思うと、アイリスの口元は硬く抑えられていた。視界の端に入ったエリカも、同じだ。

「お二人さん アタシはリンダ。昔はこの村に住んでいたの・・・アイリスと、エリカ。あんた達は生け贄よ、パパとママはあんた達を

差し出したんだよ、」

あはははははと、リンダと名のつた女は笑った。そして、二人を突き飛ばす。

逃げたいのに、逃げられるはずなのに、二人は動けない。ぴりり、と首筋に痛みが走り、エリカを見ると、その首に訳のわからない機械が張り付いていた。アイリスにも付いているのだろう。

「逃げようとしてもムダ！　『研究所』　までは動けないわよ。」

そう、言われたのを最後にアイリスとエリカは意識を手放した。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3432i/>

---

機械計画

2011年1月2日02時25分発行